

2026年4月26日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒40番（旧50番）（KH兄）

『主イエスはわがため』

聖書⇒ルカによる福音書15章11~24節（MM姉）

『また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒6番（旧8番）

『遙かに迷いし』

聖書⇒ハバクク書2章12~14節（KT姉）

『災いだ、流血によって都を築き／

不正によって町を建てる者よ。

見よ、これは万軍の主から出たことではないか。

諸国の民は力を費やしても火で焼かれるのみ。

諸民族はむなしい業のために疲れ果てる。

水が海を覆うように／
大地は主の栄光の知識で満たされる。』

聖書⇒哀歌 3 章 38, 22~23 節

『災いも、幸いも／
いと高き神の命令によるものではないか。』

主の慈しみは決して絶えない。
主の憐れみは決して尽きない。
それは朝ごとに新たになる。
「あなたの真実はそれほど深い。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒209 番 (旧 300 番) (KH 兄)

『いつかは知らねど』

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 29 節 (KH 兄)

『その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。
「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。』

(式)

礼拝讃美歌⇒155 番 (旧 208 番)

『神の小羊は』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 17 章 5 節 (CN 兄)

『父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。
世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 12 章 28 節

『父よ、御名の栄光を現してください。』
すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 2 章 10 節

『というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の痛みを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであったからです。』

聖書⇒エステル記 6 章 6~8 節

『ハマンが進み出ると、王は、「王が栄誉を与えることを望む者には、何をすればよいのだろうか」と尋ねた。ハマンは、王が栄誉を与えることを望む者は自分以外にあるまいと心に思ったので、王にこう言った。「王が栄誉を与えることをお望みでしたら、王のお召しになる服を持って来させ、お乗りになる馬、頭に王冠を着けた馬を引いて来させるとよいでしょう。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 8 節

『あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 2b 節

『しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 12 章 11, 6~7 節

『およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。』

なぜなら、主は愛する者を鍛え、／

子として受け入れる者を皆、／

鞭打たれるからである。』

あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。』

聖書⇒申命記 8 章 16b 節

『それは、あなたを苦しめて試し、ついには幸福にするためであった。』

聖書⇒イザヤ書 55 章 8~9 節

『わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／
わたしの道はあなたたちの道と異なると／
主は言われる。
天が地を高く超えているように／
わたしの道は、あなたたちの道を／
わたしの思いは／
あなたたちの思いを、高く超えている。』

聖書⇒ペトロの手紙一 5 章 6 節

『だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。
そうすれば、かの時には高めていただけます。』

聖書⇒詩編 23 編 (KH 兄)

『主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草の原に休ませ／
憩いの水のほとりに伴い
魂を生き返らせてくださる。
主は御名にふさわしく／
わたしを正しい道に導かれる。
死の陰の谷を行くときも／
わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭、あなたの杖／
それがわたしを力づける。
わたしを苦しめる者を前にしても／
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ／
わたしの杯を溢れさせてくださる。
命のある限り／
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り／
生涯、そこにとどまるであろう。』

礼拝讃美歌⇒329番（旧90A番）（KH兄）

『主はわが飼い主』

《建徳要旨》